

2022年3月期 第1四半期 決算説明会

東海旅客鉄道株式会社

2021年8月2日

目次

- I 2022年3月期第1四半期 決算実績等 … 3
- II ご利用状況と業績予想修正等 … 6
- III 中央新幹線計画の状況 … 12

I 2022年3月期第1四半期 決算実績等

損益計算書（連結）

4

(億円)

	2020年度 1Q累計 A (基準適用前)	2020年度 1Q累計 A' (基準適用後)	2021年度 1Q累計 B	増減 (B-A)	増減 (B-A')	主な増減要因 (B-A')
営業収益	1,287	1,165	1,806	518	640	
運輸業	798	799	1,357	558	557	(+) JR東海(運輸業)
流通業	252	120	220	△32	100	(+) JR東海高島屋、東海キヨスク
不動産業	155	154	167	12	13	(+) JRセントラルビル、東京ステーション開発
その他	464	495	436	△28	△58	(-) 日本車両
営業費	2,123	2,002	2,059	△64	56	
営業損益	△836	△837	△253	583	584	
運輸業	△757	△757	△238	518	518	(+) JR東海(運輸業)
流通業	△64	△65	△23	40	42	(+) JR東海高島屋、東海キヨスク
不動産業	27	27	41	14	14	(+) JRセントラルビル、東京ステーション開発
その他	△33	△31	△28	5	2	(+) JR東海ツアーズ、JR東海ホテルズ
経常損益	△1,014	△1,011	△401	612	609	
親会社株主に帰属 する四半期純損益	△726	△723	△284	442	438	

※セグメント別の内訳はセグメント間取引の相殺消去を行う前の数値です。内訳の合計値は営業収益・営業損益と一致しません。

※A: 収益認識会計基準適用前、A'・B: 収益認識会計基準適用後 (A' は参考値)

※ジェイアール東海ホテルズ、ジェイアール東海ツアーズ、ジェイアール東海エージェンシーは、決算短信では「ホテル・サービス業」に含みますが、当資料では「その他」に含みます。

損益計算書（単体）

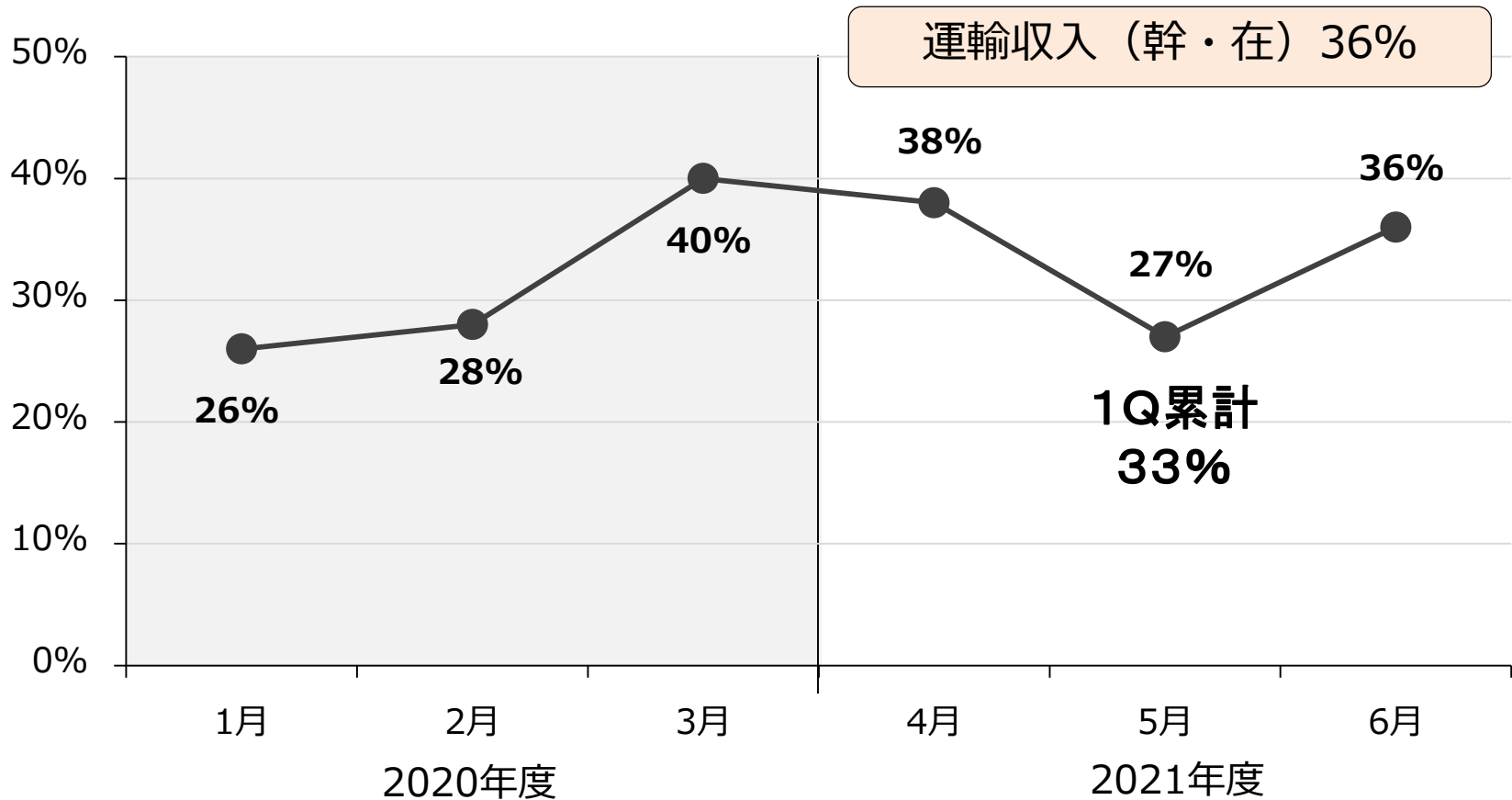
（億円）

	2020年度 1Q累計 A	2021年度 1Q累計 B	増減 (B-A)	主な増減要因
営業収益 (運輸収入)	823 (663)	1,379 (1,225)	555 (561)	新幹線+519、在来線+42
営業費	1,558	1,597	39	
人件費	444	437	△7	退職給付費用の減、等
物件費	607	623	16	
動力費	90	87	△3	
修繕費	170	187	17	設備投資関連の増、等
業務費	345	348	2	
租税公課	91	91	△0	
減価償却費	415	445	30	車両、等
営業損益	△734	△218	515	
経常損益	△918	△382	536	
四半期純損益	△659	△263	396	

Ⅱ ご利用状況と業績予想修正等

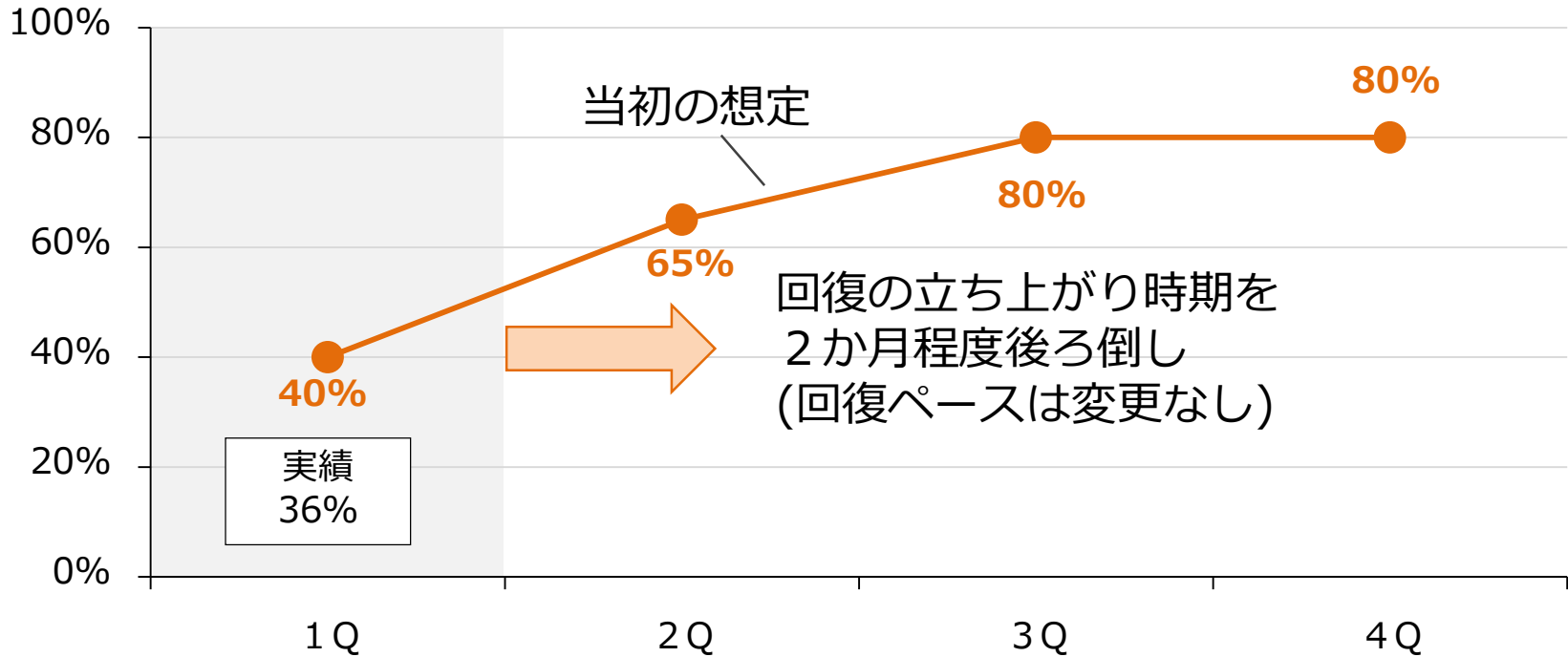
東海道新幹線のご利用状況と運輸収入

■ 東海道新幹線のご利用状況（東京口、2018年度比）



- 4/25～6/20の間、沿線地域で緊急事態宣言が発令されたこともあり、四半期を通して鉄道のご利用は低調に推移
- 第1四半期の運輸収入は2018年度比で36%と、当初の想定（40%）を下回る

■ 運輸収入の想定（2018年度比）



	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
当初想定	40%	65%	80%	80%	66%
見直し後	36%	45%	74%	80%	59%

- 足元において緊急事態宣言が発令されていることなどを踏まえ、当初想定より2か月程度回復の立ち上がり時期を後ろ倒し
- 回復ペースは変わらず、年末にかけて2018年度比80%まで回復していく想定

2022年3月期 業績予想（単体）の修正

■ 損益計算書

（億円）

	2020年度 実績 A	2021年度 前回予想 B	2021年度 今回予想 C	対 前年実績 (C-A)	対 前回予想 (C-B)
営業収益 (運輸収入)	5,417 (4,761)	9,980 (9,280)	8,900 (8,200)	3,482 (3,438)	△1,080 (△1,080)
営業費	7,177	7,860	7,830	652	△30
人件費	1,607	1,730	1,730	122	—
物件費	3,427	3,810	3,790	362	△20
動力費	377	420	420	42	—
修繕費	1,429	1,480	1,480	50	—
業務費	1,620	1,910	1,890	269	△20
租税公課	328	380	370	41	△10
減価償却費	1,813	1,940	1,940	126	—
営業損益	△1,759	2,120	1,070	2,829	△1,050
経常損益	△2,566	1,390	340	2,906	△1,050
当期純損益	△2,023	870	120	2,143	△750

2022年3月期 業績予想（連結）の修正

10

■ 損益計算書

(億円)

	2020年度 実績 A (基準適用前)	2020年度 実績 A' (基準適用後)	2021年度 前回予想 B	2021年度 今回予想 C	対 前年実績 (C-A)	対 前回予想 (C-B)
営業収益	8,235	7,400	12,340	11,150	2,914	△1,190
運輸業	5,330	5,332	9,900	8,820	3,489	△1,080
流通業	1,747	829	1,260	1,190	△557	△70
不動産業	691	691	750	750	58	—
その他	2,516	2,517	2,450	2,410	△106	△40
営業費	10,082	9,247	10,190	10,090	7	△100
営業損益	△1,847	△1,847	2,150	1,060	2,907	△1,090
運輸業	△1,833	△1,833	2,050	1,000	2,833	△1,050
流通業	△122	△122	△30	△50	72	△20
不動産業	130	130	150	150	19	—
その他	13	17	10	△10	△23	△20
経常損益	△2,620	△2,619	1,420	330	2,950	△1,090
親会社株主に帰属 する当期純損益	△2,015	△2,014	900	150	2,165	△750

※セグメント別の内訳はセグメント間取引の相殺消去を行う前の数値です。内訳の合計値は営業収益・営業損益と一致しません。

※A: 収益認識会計基準適用前、A'・B・C: 収益認識会計基準適用後(A'は参考値)

【収益拡大の取組み】

- 「場所を選ばず仕事をする」スタイルへの対応（試行）の準備
駅：無料のビジネスコーナー、有料のボックス型テレワークブース等
車内：PCのご利用等が気兼ねなくできる車両、無料Wi-Fiの増強等
（準備が整い次第お知らせ、順次サービス開始）
- 「EXサービス」の拡充
「EX-MaaS（仮称）」の開始に先立ち、沿線のホテルなど各種コンテンツを紹介するポータルサイトを開設（今秋予定）
- グループ事業の収益力強化
市中における新規出店として、名古屋ビルディングへ「ジェイアール名古屋タカシマヤウオッチメゾン」を出店（7/27オープン）



ジェイアール名古屋タカシマヤウオッチメゾン

【コスト削減の取組み】

- 年初の計画の達成に向けて取組みを推進し、当第1四半期においては、単体で約60億円、グループ会社で約30億円の費用削減を実施
- 厳しい経営環境を踏まえ、期中においても更なるコスト削減に努める

Ⅲ 中央新幹線計画の状況

【南アルプストンネル静岡工区】

- 実質的に工事が進捗しない状態が続いています。
- 国土交通省主催の「リニア中央新幹線静岡工区有識者会議」に真摯に対応することなどにより、大井川流域の方々のご懸念の解消に努めています。

《「リニア中央新幹線静岡工区有識者会議」について》

- ・ 科学的・工学的な議論を行うことを通して問題の解決を図るため、国土交通省が設置。昨年4月27日の第1回会議から、計11回開催。
- ・ これまで静岡県とJR東海の間で行われてきた議論等を検証し、以下の特に大きな2つの論点について議論。
 - ① トンネル湧水の全量の大井川表流水への戻し方
 - ② トンネルによる大井川中下流域の地下水への影響
- ・ 今後、有識者会議として、上記の論点を中間報告として取りまとめ予定。

【大深度区間のシールドトンネル工事】

- 施工管理を強化して安全に工事を実施するとともに、沿線の皆様にご安心していただくための取組みを実施します。
- 工事における安全・安心等の取組みを沿線の皆様にご説明するとともに、掘削前に工事説明会を別途開催した上で、工事に着手する考えです。

本資料に記載されている将来の計画や見込み数値等は、当社が現在入手可能な情報に基づく見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。潜在的なリスクや不確実性の例としては、経済動向や事業環境、消費動向、当社および子会社における他社との競合状況、法律や規制等の変更等が挙げられます。

(参考) 主な子会社の実績、業績予想 (連結修正前)

○実績

(億円)

	営業収益			営業損益			経常損益		
	2020年度 1Q実績	2021年度 1Q実績	前期比	2020年度 1Q実績	2021年度 1Q実績	前期比	2020年度 1Q実績	2021年度 1Q実績	前期比
JR東海高島屋 ^(※)	56	106	187.0%	△14	△2	13.3%	△14	△1	10.4%
JRセントラルビル	64	73	114.1%	2	10	440.4%	1	10	603.6%
JR東海ホテルズ [〃]	11	27	234.2%	△25	△16	66.3%	△23	△14	62.1%
日本車両	245	183	74.6%	13	8	65.1%	14	10	70.5%
				日本車両 四半期純利益			19	10	50.8%

○業績予想

(億円)

	営業収益				営業損益				経常損益			
	2020 年度 実績	2021 年度 計画 (前回)	2021 年度 計画 (今回)	前回 vs. 今回	2020 年度 実績	2021 年度 計画 (前回)	2021 年度 計画 (今回)	前回 vs. 今回	2020 年度 実績	2021 年度 計画 (前回)	2021 年度 計画 (今回)	前回 vs. 今回
JR東海高島屋 ^(※)	383	515	515	変更なし	△13	3	3	変更なし	△11	5	5	変更なし
JRセントラルビル	299	317	317	変更なし	28	32	32	変更なし	28	31	31	変更なし
JR東海ホテルズ [〃]	114	171	156	91.3%	△73	△46	△59	127.4%	△70	△46	△59	127.5%
日本車両	979	910	910	変更なし	87	52	52	変更なし	90	53	53	変更なし
					日本車両 当期純利益				83	48	48	変更なし

(※) JR東海高島屋のみ、収益認識会計基準適用による収益への影響が大きいため、2020年度実績について基準を適用した場合の参考値としている。

(参考) 輸送量の推移 (月次利用状況)

◆月次利用状況 Monthly passenger volume

(%)

期間 Period	新幹線 Shinkansen						在来線 Conventional Railway		
	東京口 Tokyo Gate					大阪口 Osaka Gate	特急等 Express	名古屋近郊 Nagoya Area	
	合計 Total	のぞみ Nozomi	ひかり Hikari	こだま Kodama	平日 Weekdays	土休日 Weekends			合計 Total
21/04	349 (38)	374 (38)	386 (32)	268 (42)	318 (39)	458 (36)	333 (35)	299 (33)	173 (75)
21/05	253 (27)	251 (26)	251 (24)	259 (35)	216 (27)	320 (26)	224 (24)	281 (26)	171 (61)
21/06	125 (36)	123 (36)	126 (32)	128 (42)	119 (36)	142 (37)	116 (35)	108 (31)	105 (70)
21/04-06	202 (33)	203 (33)	207 (29)	193 (40)	184 (34)	255 (32)	186 (31)	190 (30)	141 (69)

◆多客期利用状況 (東京口) Passenger volume during the peak holiday seasons (Tokyo Gate)

・ゴールデンウィーク “Golden Week” Holidays

期間 Period	新幹線 Shinkansen				在来線 Conventional Railway	
	合計 Total	のぞみ Nozomi	ひかり Hikari	こだま Kodama	特急等 Express	名古屋近郊 Nagoya Area
4/28~5/5	526 (32)	511 (32)	584 (29)	544 (35)	736 (35)	345 (51)

(※1)カッコ内は、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の2018年度との比較。

Note1: Numbers in parentheses are compared to FY2018 (before the decline due to the COVID-19 pandemic).

(※2)新幹線・在来線特急等は特定の駅間における月累計断面輸送量の対前年比。

在来線名古屋近郊は自動改札集計による乗車人員合計の対前年比。※多客期においては定期外の乗車人員に限る。

Note2: The data of the Shinkansen and Express is based on the total passenger volume of each month at certain points.

The data of the Nagoya area is based on the passenger ridership of each month counted by automatic ticket gates.

※The data of the Nagoya area regarding the peak holiday seasons is based on the passenger ridership excluding commuter passes.

(参考) 月次営業概況 (商業施設・ホテル)

◆商業施設

Commercial Facilities

ジェイアール名古屋タカシマヤ、及び
タカシマヤ ゲートタワーモール

JR Nagoya Takashimaya and
Takashimaya Gate Tower Mall

期間 Period	売上高合計 2022年2月期 (百万円) Total Sales FY2021: 2021.3~2022.2 (Millions of Yen)	前年同月比 (%) YoY Comparison
21/03	13,990	147.5
21/04	10,591	383.3
21/05	8,479	210.0
21/06	9,867	88.9

(※1) 名古屋JRゲートタワーホテルは前年4月13日から5月31日まで休業。

Note1:Nagoya JR Gate Tower Hotel was closed from April 13th to May 31st, 2020.

(※2) 各月の数値は速報値のため、確定値とは異なる場合がある。

Note2:The number for each month comes from a quick estimation, which might differ from the actual results.

◆ホテル

Hotels

名古屋マリオットアソシアホテル
Nagoya Marriott Associa Hotel

名古屋JRゲートタワーホテル
Nagoya JR Gate Tower Hotel
(※1)

期間 Period	稼働率 (%) Occupancy Rate	前年同月比 増減 YoY Inc./Dec.	稼働率 (%) Occupancy Rate	前年同月比 増減 YoY Inc./Dec.
21/04	41.8	23.3	53.0	29.3
21/05	31.8	15.1	40.5	-
21/06	35.8	10.1	51.4	24.2